

無痛分娩管理マニュアル（一部抜粋）

【方針】

1, 無痛分娩の基本的な考え方

無痛分娩とは、分娩中の痛みを麻酔などの手段で緩和しながら、分娩を介助することをいい、当院では硬膜外麻酔を使用することを表す。

痛みの感覚は個人差があり、完全に痛みがなくなるものではなく、和らげることが目的である。よって、自然経膈分娩にともなう症状を麻酔で補助することにより、妊婦の合併症（妊娠高血圧症候群、パニック障害など）の悪化を予防したり、精神的不安や苦痛を緩和したりことで、経膈分娩を介助する方法の一つであるとかんがえる。

2, インフォーム・ドコンセント

硬膜外麻酔による無痛分娩には、原則、夫婦両名の同意書を要する。

集団講習による「無痛分娩講習」を受講する、もしくは、個別に外来受診時に説明を受けることを必須とする。

説明文には、当院での管理方法、入院からの流れ、処置の内容、合併症が含まれている。

当院で作成された、「硬膜外麻酔による無痛分娩」「陣痛促進剤の使用に関する同意書」の2種の文章を確認し、夫婦両名の署名した同意書を保存する。

3, 人員体制について

麻酔管理可能な人数配置の調整のため、原則完全予約制とする。

硬膜外麻酔を分娩に使用する場合、計画分娩（陣痛促進剤による）を行うこととする。原則、時間外や休日、祝日には行わない。

日中自然陣痛開始や破水による管理入院となった場合はその限りではない。

4, インシデント・アクシデント発生時の具体的な対応

- 1) 発見者（医師・看護師・助産師）は、まず患者と胎児の安全を確認する。
- 2) 分娩担当医または、麻酔担当医へ報告し対応の指示を仰ぐ。
- 3) 報告を受けた担当医は、必要に応じて診察を行う。
- 4) 救命蘇生対応が必要な場合は、すぐに人員確保を行い、救急カートを用意する。
- 5) 院内で対応不能と判断した場合、速やかに搬送手配を行う。（都立多摩総合医療センター、日本医大多摩永山病院、杏林大学医学部附属病院）

以下概要

硬膜外麻酔の手順

（開始前確認）

（体位）

（消毒）

（穿刺）

（カテーテル挿入）

（薬物注入）

（カテーテル抜去）